

農業

令和3年9月号
会誌 No. 1681



目次

巻頭言

今、有機農業が熱い!?大杉 立 3

論壇

若手農業者よ、4Hクラブに入ろう!首藤 元嘉 4
いや、入るべきだ

農業懇話会

エビデンス（根拠）に基づく農業・農村施策の立案に向けて...藤栄 剛 6

農事功績者座談会

地域と調和した都市近郊の地域交流型酪農経営.....石田 栄男 22
石田 豊子
現地指導者のコメント.....齋藤 直美 30
意見交換 32

研究の最前線

光と色による害虫防除技術.....城塚可奈子 39
—赤色光によるミナミキイロアザミウマ防除—

農業・農村の現場から

みやぎの新たな農業交流拠点.....庄子 雅和 48
—東日本大震災を契機とした「田所食品株式会社」の挑戦—

世界の農業は今

米韓 FTA と韓国農業（畜産部門）への影響……………柳 京熙 54

私の経営と志

固定概念からの脱却……………大隣 直人 59

食を楽しむ

フルーツ農家と菓子職人のサステナブルな関係性……………平岩 理緒 61

統計情報

2020年新規就農者調査結果…………… 62

農政情報

大日本農会だより…………… 64

編集部から…………… 64

会誌「農業」に関するアンケート

表紙写真説明

スダチの収穫（徳島県佐那河内村）

スダチは香酸カンキツ類で、徳島県の生産量は全国1位を誇り、国内生産の9割以上が出荷されています。需要促進や消費拡大のため、県のマスコットキャラクターの「すだちくん」や「すだち大使」も県民になじみです。

県内随一の産地、佐那河内村では、その昔、ほとんどの山の畑は温州ミカンでしたが、1981年（昭和56年）2月に強風と寒波が来襲し、寒い日が2、3日続きました。気温がマイナス20℃まで下がり、特にミカンの被害は大きくほとんどの木が枯死しました。俗に、五六の寒波と呼ばれています。

その後官民合同で推進し、多くの農家がミカンからスダチの転作を行い、山々は「黄金の谷」から「銀の谷」と呼ばれるようになりました。

完全共同出荷・冷蔵貯蔵による周年出荷体制が整い、県の推奨作物にもなり、「ハウススダチ（3～8月）」「露地スダチ（8～10月）」「冷蔵スダチ（10～3月）」と1年中出荷が行われています。

JA 徳島市果樹選果場では高品質出荷に努めており、高性能カメラセンサーなどを備え選果効率を上げており、選果・加工を合わせ年間1,000tの出荷が行われています。

洗練された香りとすっきりした酸味が特徴で、果汁はもちろん、果皮も薬味として幅広い料理をグレードアップさせてくれます。露地出荷の最盛期の夏は、そうめん、うどんの薬味として、また秋の味覚のサンマには欠かせず、冬は土瓶蒸しや鍋物に最適で、季節を問わず全国に親しまれています。

（徳島市農業協同組合総務部広報 岡島 みずき）